

記者発表（資料配布）				
月／日 （曜日）	担当課 係 名	TEL （内線）	発表者名 （担当班長名）	その他の配布機関
5／9 （火）	広報広聴課 地域広報班	078-362-3019 （2070）	富田 恵一 （森口 啓子）	北播磨県民局・淡路県民局 西播磨県民局

令和5年全国広報コンクールにおける兵庫県推薦の受賞作品について

公益社団法人日本広報協会が主催する令和5年全国広報コンクールの総合審査会において、広報紙等5媒体10部門の審査が行われ、応募作品448点の中から、受賞作品が決定されました。

（※受賞作品の一覧はHP参照 https://www.koho.or.jp/contest/zenkoku/2023_result.html）

兵庫県からは「第70回兵庫県広報コンクール」の特選作品を推薦し、4作品が下記のとおり受賞しましたのでお知らせします。

【兵庫県の受賞作品】

●佐用町「広報さよう」2022年12月号

部 門：広報紙（町村部）（応募作品：27点）

受 賞：読売新聞社賞・入選2席

審査評：特集の姫新線とイベント記事で全体の半分以上を占め、読み物中心の構成となっている。町の人に読み物で楽しんでもらおうという意図が見える。鉄道記事は一般の人にも楽しく読めるような内容だが、すでに廃線になった他地域の状況をレポートすることで、廃線の危機感を伝える展開になっている。JRが発表した収支状況で、町を走る姫新線も深刻な赤字路線であることが示された。「廃線の危機は感じるが、何をしたらいいのかわからない」という声が多いことを受け、企画された。利用者数の推移など、エビデンスとなる具体的な数値を交え、ロジカルにストーリーを展開し、住民の意識・行動の変容をうながす企画構成になっている。地元鉄道が維持されるかどうかは地域の大きな問題であり、国の政策・議論とともに報道もされているが、地元の視点が深く掘り下げられた点に意味があり、今まさに重要な特集であったと感じる。広報誌では経営の現状と予算もわかりやすく紹介し、「私たちにとって」の路線をどうしていきたいかを皆で考えるきっかけの場となった。給食のお味噌汁コンテストに関する記事は少しほっこりする。



●洲本市「広報すもと」2022年11月号

部 門：広報紙（市部）（応募作品：67点）

受 賞：入選

審査評：ひきこもり、潜在的ひきこもりに焦点をあてた特集。引きこもりになった原因は、怠慢や甘えではなく、人それぞれに様々な要因が複雑に絡み合って不本意ながらそのようになったという“知識”がしっかり説明されている。だからこそ一人ひとりに寄り添ってその人なりの対応が必



要で、そのために相談員と居場所があるのだという、現に引きこもってもがいている人たちへの呼びかけが感じられる、思いやりのある作品となっている。ひきこもり問題を扱うのは難しい。ある人のひきこもりが解決できた例を示したからと言って、それが他のすべての人に当てはまるわけではない。それがわかっているから、どこまで紙面に示すかの葛藤があったことと推測される。問題にまじめに立ち向かおうとする姿勢に好感がもてた。単純に新設されたサポートセンターの紹介という見せ方ではなく、当事者のストーリー、当事者やご家族に寄り添った丁寧な取材、言葉やフォントの選び方、文字を詰め込みすぎない安心感のあるレイアウトや色合いなど、端々から「誠実さ」が伝わってくる編集であった。文章で説得しようとするのではなく、非言語で「余白＝隙」が表現されており、自然と「相談してみようかな」と思えるデザインになっている点が素晴らしかった。

●佐用町「広報さよう」2022年7月号・表紙

部 門：広報写真（一枚写真部）（応募作品：61点）

受 賞：入選

審査評：こどものアップ、昆虫目線がじつに愛らしい一枚。今にも飛び立ちそうで撮っている側もハラハラしそうである。スマートフォンでの撮影。いまや、A4判の表紙に使えなくもない解像度も装備してきたので、今後増えてくるかもしれない。屋内のイベント撮影で、人混みなどの制約もあったと想像するが、スマホの手軽さ・機動性もあり、表紙写真として成立させることができた。画像全体のぼかし具合をみると多分、背景のぼかし効果を調整したのだろう。その効果で、読者の視線を子どもの目線とトノサマバッタに集中させている。昆虫と少年のキラキラとした瞳が印象的な写真だ。スマートフォンでの撮影は身近な分、大きなカメラより警戒心もなくなり、子どもたちの素早い動きなどにも対応しやすいため、こうしたイベントでは大活躍する。広角レンズが搭載されたスマートフォンは歪みやすいが、適切な距離感でポートレートモードを上手に活かしている。



●多可町『広報たか「だいすき！taka」』2022年10月号・表紙

部 門：広報写真（組み写真部）（応募作品：33点）

受 賞：入選2席

審査評：これはなんともチャレンジングであり映画的な雰囲気もあるアート性が高い作品だ。これまで、あまり見かけなかった新鮮な組み写真。みているこちらにも引き込まれてしまうドラマ性があり曇り空だからなのか青みがかかる色味も雰囲気と合っている。あえて表情を見せていないのが想像を掻き立てられていい。タイトルも主張しすぎず、紙もマットな質感でこれなら若い世代でも思わず手にとってしまうセンスのある作品となった。視覚的な派手さや迫力でアピールするのではなく、静かに読者の心を引き寄せる写真といえるかもしれない。2枚の組み写真なので、対比的にするのはセオリーどおり。一方、「生きる」の語源のひとつは「息をする（息る）」とされているが、表紙のコピー「息る」と2枚の写真を重ね合わせ、「？」と感じた人



もいるだろう。まるで映画の予告編を観ているように感じ、しばらく目が離せなくなってしまう。2枚しかない組み写真なのに、背景にある計り知れない物語の質の高さを垣間見た。上段の写真は手で顔を覆っているが完全に隠れていない状態が気持ちの奥行きを表現していて、絶妙なタイミングを狙っていて見事だ。下段の逆光の光が全体を優しく淡く包んでいるような演出がさらにドラマチックに表現している。1枚ずつでは表紙にはなれなかった写真が、2枚で1つの最高の表紙として、完成度の高さを感じた。

【参考】

1 令和5年全国広報コンクールへの応募作品について

(1) 応募作品

各団体が企画し、令和4年1～12月の間に発行、発表された作品で、各都道府県が審査の上、推薦したもの（点数の制限あり）。ただし、ウェブサイト、広報企画は、市町からの応募作品を、各都道府県が点数を問わずに推薦。

(2) 応募点数

総数		448点
・ 広報紙	都道府県・政令指定都市部	51点
	市部	67点
	町村部	27点
・ ウェブサイト	都道府県・政令指定都市部	7点
	市部	73点
	町村部	18点
・ 広報写真	一枚	61点
	組み	33点
・ 映像		43点
・ 広報企画		68点

2 兵庫県からの推薦作品

・ 広報紙	都道府県・政令指定都市部	兵庫県	「県民だよりひょうご9月号」
		神戸市	「広報紙 KOBE 11月号」
	市部	洲本市	「広報すもと11月号」
・ ウェブサイト	町村部	佐用町	「広報さよう12月号」
	市部	伊丹市	
		小野市	
		三田市	
		宝塚市	
		豊岡市	
		姫路市	
・ 広報写真	一枚写真	佐用市	「広報さよう 7月号・表紙」
	組み写真	多可町	「広報たか 10月号・表紙」
・ 映像		小野市	「小野まつり」
・ 広報企画		明石市	「第6回 あかしこども新聞」
		加古川市	「シティプロモーションサイト『加古川暮らし』」

3 過去5年の全国広報コンクールにおける兵庫県推薦作品の成績

▼令和4年

- ウェブサイト（都道府県・政令都市部門）
[特選、総務大臣賞] 兵庫県
- ウェブサイト（市部）
[入選] 姫路市
- 広報紙（都道府県・政令指定都市部）
[入選] 兵庫県「県民だよりひょうご」2021年11月号
- 広報紙（町村部）
[入選] 多可町「広報たか」2021年9月号
- 広報写真（組み写真部）
[入選] 丹波市「広報たんば」2021年1月号 2～3ページ

▼令和3年

- 広報写真（組み写真部）
[読売新聞社賞・入選] 宍粟市「広報しろう5月号・表紙」
- 広報紙（市部）
[入選3席] 小野市「ONO Press（広報おの）10月号」
- 広報紙（都道府県・政令指定都市部）
[入選] 神戸市「広報紙KOBE 10月号」

▼令和2年

- 広報写真（一枚写真部）
[読売新聞社賞・入選] 川西市「広報かわにし milife
12月号・表紙」
- 広報紙（都道府県・政令指定都市部）
[入選3席] 神戸市「広報紙KOBE 11月号」
- 広報写真（組み写真部）
[入選] 丹波市「広報たんば 4月20日号・26～27ページ」
- 映像
[入選] 宝塚市「Love and CITY～TAKARAZUKA
RIVERSIDE STORY～」

▼平成31年令和元年

- 広報紙（都道府県・政令指定都市部）
[読売新聞社賞・入選3席] 神戸市「広報紙KOBE 11月号」

▼平成30年

- 広報紙（市部）
[佳作] 宝塚市「広報たからづか 7月号」
- ウェブサイト（都道府県・政令指定都市部）
[入選] 神戸市ウェブサイト
- ウェブサイト（町部）
[総務大臣賞・特選] 猪名川町ウェブサイト
- 広報企画
[入選] 川西市「選挙と高校生と”プランとハンター”
をマッチング！」～動画作りを通じて”
選挙に行かないのはもったいない”
と実感～」